

名大トピックス

NAGOYA UNIVERSITY TOPICS

No.168

2007年5月

平成19年度入学式を挙げる



UCLA との工学部協定締結記念国際シンポジウムを開催

●大学院工学研究科

大学院工学研究科は、3月26日(月)、27日(火)、野依記念学術交流館において、同研究科とUCLA(カリフォルニア大学ロサンゼルス校)工学・応用科学部との学術交流協定の締結を記念して、シンポジウムを開催しました。

平野総長による開会のあいさつの後、シンポジウムの開催に先立ち、澤木工学研究科長及びビジャイ ディア UCLA 工学・応用科学部長により、学術交流協定の署名式を執り行いました。

シンポジウムのテーマは、「マイクロ・ナノメカトロニクスが拓く未来生体医工学」であり、UCLA からチンミン ホー教授、チャンジン キム教授、ローレント ピロン助教授、エリック ペイユ チョウ助教授の4名による講演と3名の学生によるポスター発表、工学研究科から、生田幸士教授、高井 治教授、福田敏男教授、馬場嘉信教授、本多裕之教授の講演と9件のポスター発表を行いました。また、UCLA と本学、それぞれの研究室を紹介するブースを開

設し、学生も交えて両大学の交流を深めました。今回のシンポジウムは、生田教授とホー教授により企画されたものですが、学術交流を有効かつより緊密にしていくため、今後も継続的にシンポジウムを開催することが両者の間で確認されました。



握手するビジャイ ディア部長(左)と澤木研究科長(右)



学術交流協定締結後の記念写真

小型シンクロトロン光研究センターの看板上掲式を挙る

小型シンクロトロン光研究センターは、4月9日(月)、工学部8号館南玄関において、本年4月1日付けで学内共同教育研究施設として設置された同センターの看板上掲式を挙りました。

同センターは、本学の立案による平成21年度に完成予定の小型シンクロトロン光施設の設計と運営及び研究推進の

母体となるもので、同施設は、「光科学ナノファクトリー計画」を基礎として、愛知県、産業界、大学、研究機関が一体となって、地域密着型で、基礎研究は勿論、開発研究から産業応用まで「ものづくり」、「ナノ」の中心となる施設です。

上掲式には、学内から、平野総長をはじめ、各理事、監事、小野木工学研究科長、澤木前工学研究科長等が、学外から、独立行政法人科学技術振興機構 JST イノベーションプラザ東海の丸勢 進総館長(本学名誉教授)が列席しました。

はじめに、竹田同センター長から、同センターの設置経緯と役割について報告があった後、平野総長からセンターへ期待を込めたメッセージが送られました。引き続き、関係者による看板の上掲が行われ、式典は無事終了しました。



看板を掲げる総長(左)と竹田センター長(右)